

表紙の題字は



播磨小学校6年
のりづみ あやこ
浜積 礼子さん
の作品です

色彩豊かな播磨町

播磨町は、小さな町の中にたくさんの方が詰まっています。様々な「色」が詰まる町です。嬉しい色、悲しい色、楽しい色、たくさんの表情によって未来がとても色鮮やかになるような気がします。こんな色彩豊かな風景が、私は大好きです。

播磨町には、公園や学校、大中遺跡などのステキなところがたくさんあります。自由にのびのび過ごせるところや自然豊かなところもあって、とても住みよい町です。播磨町の人々は、この当たり前のようにある日々を、大切にしていると思います。私は、播磨町にある自然の色、表情の色、建物の色に囲まれた、穏やかな日常がとても気に入っています。これからも、仲間とともに、笑顔のたえない播磨町で暮らしていきたいです。

～ステキな出会いがありました～



▲みんなで気持ちを一つに



▲自転車も安全運転で



▲風をきってピース
▼コミセン運動会で車イス体験



▲交通ルールをしっかりと確認



▼フルスイングでナイスショット



季節の花言葉 ハイビスカス

カラフルな色合いで堂々と咲き誇るハイビスカスの花言葉は「信頼」「勇気ある行動」です。住民の皆さまの信頼に応える議会を目指し活動してまいります。



昭和37年4月1日、兵庫県で唯一の村であった阿閉村が名称変更と同時に町制へ移行し、播磨町として新たにスタートしました。当時の人口は、9363人で、新島などの沿岸部の埋め立てもされていなかったため、町域も今よりも狭い約6平方キロメートルでした。その後、新島や近隣の工業地の開発が進み、都市部への交通便利性も良いことなどから宅地化が進みました。人口も急速に増加し、昭和50年には2万人を越え、昭和60年には3万人を越えました。町制への移行こそ一番最後でしたが、その後の変化が最も大きいのが、我々の播磨町かもしれない。そんな。

その町制施行から今年で60年となりますが、今後も、住民・事業者・行政・議会が連携して、自然などを大事にしながら、より良い播磨町へと変化が続くことを願います。

(神吉)